

情報・システム研究機構教育研究評議会（平成30年度第2回）議事要旨

日 時：平成30年10月26日（金）13：30～15：30

場 所：情報・システム研究機構 会議室

出席者：岡田清孝評議員、栗原考次評議員、BENTON Caroline Fern 評議員、
安成哲三評議員、藤井良一評議員（議長）、津田敏隆評議員、樋口知之評議員、
桂勲評議員、小池良高評議員、中村卓司評議員、喜連川優評議員、
藤山秋佐夫評議員、野木義史評議員、相澤彰子評議員、伊藤聡評議員、
城石俊彦評議員

オブザーバー：鈴木監事

陪席者：本部事務局・研究所事務担当者

議事に先立ち、議長より、本会の成立要件の確認があった。

議 事：

【審議事項】

（1）次期国立遺伝学研究所所長候補者の推薦について

藤井議長より、資料1-1に基づき、選考に関する規則の説明の後、国立遺伝学研究所運営会議の荒木議長より、資料1-2～1-6（1-3～1-6は取扱注意資料）に基づき、選考の経過及び理由について説明があり、審議を踏まえ、藤井機構長が花岡文雄氏を次期国立遺伝学研究所所長にすることと決定した。

なお、藤井議長より、公表は役員会終了後の10月29日とする旨の説明があった。

（2）次期統計数理研究所所長候補者の推薦について

藤井議長より、資料2-1に基づき、選考に関する規則の説明の後、統計数理研究所運営会議の中野会長より、資料2-2～2-7（2-4～2-7は取扱注意資料）に基づき、選考の経過及び理由について説明があり、審議を踏まえ、藤井機構長が椿広計氏を次期統計数理研究所所長にすることと決定した。

なお、藤井議長より、公表は役員会終了後の10月29日とする旨の説明があった。

（3）組織運営規則の一部改正について

小池評議員より、資料3-1～3-4に基づき説明があり、審議の結果、役員会にて審議することが了承された。

<意見概要>

- 極地研の特任教授について、定年等はあるのか。例えば、外部で定年を迎えた教員を採用することは可能なのか。
 - 定年というものはない。外部で定年を迎えた教員を採用することも可能である。

- 遺伝研の研究センターの移行先及びその狙いは何か。
 - もともと研究センターの多くは、事業を行うために作られたが、共同利用事業センターを設置して事業をそちらに移したために、研究センターの目的が曖昧になり、研究系との違いがなくなっていた。そこで、今回、研究センターと研究系に所属する研究者を合わせて、新たに作った4研究系に再配置した。その狙いは、新しい研究系への教員の再配置により、遺伝研の方向性を示すとともに、所内の共同研究や協力を増やして研究を活性化することである。(ただし、テニュアトラック准教授のための新分野創造センターは、この改組から除外している。)

(4) 情報・システム研究機構長選考会議委員の選出について

藤井議長より、資料4に基づき、教育研究評議会から選出された安達委員の評議員退任に伴う補欠の委員の選任について説明があり、審議の結果、相澤評議員が選出された。

【報告事項】

(1) 情報・システム研究機構理事の選考について

藤井議長より、資料5-1、5-2に基づき報告があった。

(2) 研究教育職員に係る人事異動について

藤井議長より、資料6に基づき報告があった。

(3) 平成31年度概算要求状況の伝達について

小池評議員より、資料7-1～7-3に基づき報告があった。

(4) 第3期中期目標期間における施設・環境整備計画について

小池評議員より、資料8-1、8-2に基づき報告があった。

(5) 2018年度補正予算（一般経費）について

小池評議員より、資料9-1～9-3に基づき報告があった。

(6) 財務状況の解説について

小池評議員より、資料10に基づき報告があった。

(7) 平成 29 事業年度の業務の実績に係る評価について

津田評議員より、資料 1 1 - 1 ~ 1 1 - 4 に基づき報告があった。

<意見概要>

- 評価が良好であるが、寄附金の収入増はどのように行ったのか。
→ 極域科学振興募金という仕組みを設けた。その中で金額の大きなものが 1 件あった。

(8) 研究環境基盤部会における状況について

藤井議長より資料 1 2 に基づき報告があった。

<意見概要>

- 各機構の予算が不足している現状では、1 法人化による予算面のスケールメリットは期待できないのではないか。
- 法人の統廃合は、アカデミアとしての議論の上で、各機関のアイデンティティ、フィージビリティを高めるという観点で行われるべき。
- 運営費交付金の継続的な削減により、本来研究の発展を目的とする科研費を基盤的経費とせざるを得ないというデュアルサポートの機能不全の問題がある。それに基づく議論を改革につなげる必要があるのではないか。
- 無理矢理に法人の統合を行うのではなく、アカデミックに自然な形でなくてはならない。
- 法人の統合をすることによって、それぞれの機構、研究所がよりアクティブになるようなシステムが必要である。スケールメリットを考え、共同での備品購入等は検討出来るだろう。

(次回の教育研究評議会の日程について)

- ・ 次回の教育研究評議会は、1 月 2 5 日 (金) 1 0 : 0 0 から、情報・システム研究機構会議室にて開催の予定。

以上

≪配付資料≫

- ・ 前回議事要旨
- ・ 情報・システム研究機構が設置する大学共同利用機関の長の選考等に関する規則・
.....【資料 1 - 1】

- ・情報・システム研究機構国立遺伝学研究所長候補者選考規程・・・・・・・・【資料1-2】
- ・国立遺伝学研究所所長候補者の推薦について・・・・・・・・【資料1-3】(取扱注意)
- ・所長候補者選考報告書・・・・・・・・【資料1-4】(取扱注意)
- ・所長候補者履歴書・・・・・・・・【資料1-5】(取扱注意)
- ・研究業績等・・・・・・・・【資料1-6】(取扱注意)
- ・情報・システム研究機構が設置する大学共同利用機関の長の選考等に関する規則・
・・・・・・・・【資料2-1】
- ・情報・システム研究機構統計数理研究所長候補者の選考について・・・【資料2-2】
- ・情報・システム研究機構統計数理研究所長の任期に関する規則・・・【資料2-3】
- ・統計数理研究所所長候補者の推薦について・・・・・・・・【資料2-4】(取扱注意)
- ・所長候補者選考報告書・・・・・・・・【資料2-5】(取扱注意)
- ・所長候補者履歴書・・・・・・・・【資料2-6】(取扱注意)
- ・研究業績等・・・・・・・・【資料2-7】(取扱注意)
- ・情報・システム研究機構組織運営規則の一部改正について(案)・・・【資料3-1】
- ・国立遺伝学研究所組織改編について・・・・・・・・【資料3-2】
- ・情報・システム研究機構組織運営規則(新旧対照表)・・・・・・・・【資料3-3】
- ・情報・システム研究機構組織運営規則(案)・・・・・・・・【資料3-4】
- ・情報・システム研究機構長選考会議規則等・・・・・・・・【資料 4】
- ・情報・システム研究機構理事の選考に関する規則・・・・・・・・【資料5-1】
- ・情報・システム研究機構役員等一覧・・・・・・・・【資料5-2】
- ・研究教育職員に係る人事異動について・・・・・・・・【資料 6】
- ・2019年度概算要求のポイント・・・・・・・・【資料7-1】
- ・2019年度(平成31年度)概算要求事項一覧(情報・システム研究機
構)・・・・・・・・【資料7-2】
- ・2019年度(平成31年度)国立大学法人等施設整備概算要求事業(抜
粋)・・・・・・・・【資料7-3】
- ・第三期中期目標期間における施設・環境整備計画について・・・【資料8-1】
- ・(第三期中期目標期間における)情報・システム研究機構 施設・環境整備計画(変更
案)・・・・・・・・【資料8-2】
- ・2018年度補正予算編成方針(案)・・・・・・・・【資料9-1】
- ・2018年度補正予算(一般経費)・・・・・・・・【資料9-2】
- ・(第三期中期目標期間における)情報・システム研究機構 施設・環境整備計画(変更
案)・・・・・・・・【資料9-3】
- ・「財務状況の解説」(平成29年度)について・・・・・・・・【資料 10】
- ・平成29事業年度に係る業務実績報告書に関するヒアリングについて・【資料11-1】
- ・平成29事業年度に係る業務実績報告書に関するヒアリング資料・・・【資料11-2】
- ・平成29事業年度に係る業務実績報告書・・・・・・・・【資料11-3】
- ・平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果(原案)について・・・【資料11-4】

・研究環境基盤部会配付資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・【資料 12】